

### 3-6 美学・西洋美術史

#### 研究・教育活動の概要と特色

美学・西洋美術史研究は、人間の証とでもいうべき感性、創造性に依拠しています。「近代」においてはとくに芸術が、宗教や共同体幻想を代行するまでになっています。だとするとそれにはどのような意味があるのか、を問わなければなりません。その問を具体的な作品にアプローチすることで果たそうとしています。芸術作品が成り立つその前提を疑うという姿勢から、新たな価値観を見いだす作業を「美学」において学べるように努めています。本講座で学ぶ美学は、いわゆる伝統的な理論的美学ではなく、美術史研究を行っていく上での方法論を考える、価値判断の重要性を認識する手段となっています。

一方、美術史学は作品を歴史的コンテクストの中で調べ、現代的な批評の視点でその様式、図像、社会的位置を研究するように努めています。美術史においては、西洋美術全般にわたって様式的分析ばかりでなく、その「イコノロジー」的考察、社会史的分析を視野に入れて芸術家と作品との関係を考察することに主眼を置いています。それに加えこれまでマイノリティーの問題であった、東洋からの西洋美術への影響を取りあげ、その意義を明らかにしていきたい。

#### I 組織

##### 1 教員数 (2013年9月末現在)

教授：1

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：尾崎彰宏

准教授：芳賀京子

准教授：エンリコ・フォンガロ

助教：森田優子

##### 2 在学生数 (2013年9月末現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博 士 前期	大学院博 士 後期	大学院 研究生
25	1	3	3	1

### 3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	4	0	2
10	10	3	1
11	2	1	2
12	5	0	0
13	0	0	0
計	21	4	5

\*2013年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件 数	論文博士授与件 数	計
09	2	0	2
10	1	0	1
11	1	0	1
12	0	0	0
13	0	0	0
計	4	0	4

\*2013年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

加藤奈保子、2009年度、『一七世紀初頭のローマ社会とカラヴァッ  
ジョー—伝統と革新—』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、教授・長岡龍作、教授・泉

武夫、准教授・今井勉

森田優子、2009年度、『ヴィットーレ・カルパッチョ研究——「ス  
ラヴ人会」連作を中心に——』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、准教授・芳賀京子、教授・  
長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・今井勉

石澤靖典、2010年度、『サンドロ・ボッティチェッリ研究——都市  
イメージの形成と芸術家の役割——』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、准教授・芳賀京子、教授・  
長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・有光秀行

小松健一郎、2011年度、『コレッジョと十六世紀初期ポー川中流域の  
芸術——「周縁」におけるマニエラ・モデルナの形成』

審査委員：教授・尾崎彰宏(主査)、准教授・芳賀京子、教授・  
長岡龍作、教授・泉武夫、准教授・有光秀行

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	2	1	0	0	3
10	0	2	1	0	3
11	1	2	1	0	4
12	1	1	0	0	0
13			0	0	
計	5	8	2	0	15

\* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学 会	研究 会	その他	計
09	0	1	0	0	1
10	0	4	0	0	4
11	0	4	0	0	4
12	0	2	0	0	2
13	0			0	
計	0		0	0	

\* 2013年度は9月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

## 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

### (1) 論文

阿部愛、「展覧会評「オランダのカラヴァッジョ——カラヴァッジョとユトレヒト派カラヴァッジェスキによる音楽と風俗画」展」、『美術史学』、第30号、135-144頁、2009年

石澤靖典、「一五世紀フィレンツェにおける美術と地理学——ベルリンギエリ『地理学の七日間』をめぐって——」、『文化』、第72巻第3・4号、29-52頁、2009年

石澤靖典、「十五世紀フィレンツェにおける都市図の展開——フランチェスコ・ロッセッリの地図制作と都市の理念」、『都市を描く——東西文化にみる地図と景観図』（佐々木千佳・芳賀京子編）、東北大学出版会、31-97頁、2010年

伊藤麻衣、「ルーカス・クラナハ（父）の《聖カタリナ祭壇画》に関する一考察——自然と身体運動の表現の変遷を中心に——」、『美術史学』、第31/32号、2010/2011年

絹川陽子、「ピサのカンポサントの《最後の審判と地獄》——教訓を垂れる審判図——」、『美術史』、第172冊、224-238頁、2012年

小松健一郎、「初期コレッジョとエミリア地方の「早熟な古典主義」——「周縁」の芸術に関する一試論」、『美術史』、第167冊、2009年

斉藤陽介、「アングル作《博士たちの間のイエス》に関する一考察——背景表現の変遷を中心に——」、『美術史学』、第31/32号、2010/2011年

鈴木幸野、「ピサネッロ作ブレンツォーニ家墓碑装飾をめぐる一考察」、『美術史学』、第33号、2012年

### (2) 翻訳

小松健一郎訳、展覧会カタログ『古代ローマ帝国の遺産——栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ——』（国立西洋美術館、2009年9月19日～12月13日）、国立西洋美術館、2009年、章解説と作品解説の翻訳（pp. 33-34, 81, 109, 110, 112, 115）

絹川陽子訳、展覧会カタログ『古代ローマ帝国の遺産——栄光の都ローマ

と悲劇の街ポンペイ——』(国立西洋美術館、2009年9月19日～12月13日)、国立西洋美術館、2009年、論文と作品解説の翻訳(pp. 19-27, 125, 126, 131)

小松健一郎訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』(神戸市立博物館ほか、2011年3月12日～)、朝日新聞社、2011年、章解説と作品解説の翻訳

奥田亜希子訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』(神戸市立博物館ほか、2011年3月12日～)、朝日新聞社、2011年、章解説と作品解説の翻訳

阿部愛訳、展覧会カタログ『大英博物館古代ギリシャ展』(神戸市立博物館ほか、2011年3月12日～)、朝日新聞社、2011年(出版予定)、章解説と作品解説の翻訳

佐々木千佳訳、展覧会カタログ『ベルリン国立美術館展』(国立西洋美術館ほか、2012年6月13日～9月17日)TBS、2012年、作品解説執筆と翻訳

加藤奈保子訳、展覧会カタログ『ベルリン国立美術館展』(国立西洋美術館ほか、2012年6月13日～9月17日)TBS、2012年、作品解説の翻訳

伊藤麻衣訳、展覧会カタログ『ベルリン国立美術館展』(国立西洋美術館ほか、2012年6月13日～9月17日)TBS、2012年、作品解説の翻訳

### (3) 口頭発表

伊藤麻衣、「ルーカス・クラナハ(父)の《聖カタリナ祭壇画》に関する一考察——森からの離脱と感情表現の変化——」、第61回美学会全国大会、2010年10月9日

伊藤麻衣、「クラナハ(父)の《メランコリー》連作に関する一考察——1530年前後の「愛の教訓」との関連を中心に——」、第63回美学系全国大会、2012年10月8日

奥田亜希子、「ベノッツォ・ゴッツォリの「正面観」に関する一考察——画家の両面性を映す鏡としての「正面観」——」、第61回美学会全国大会、2010年10月9日

絹川陽子、「中世末期の悪の一表象——ピサのカンポサントの《死の勝利》

を中心に——」、第 62 回美術史学会全国大会、2009 年 5 月 24 日  
小松健一郎、「「周辺 (periferia) の画家」—コレッジョの形成期における  
諸流派との関係—」、第 61 回美術史学会全国大会、2008 年 5 月 31 日  
「コレッジョ作〈ユピテルの愛〉連作と 16 世紀エロティック絵画の潮  
流」、第 3 回美学会東部会例会、2009 年 10 月 3 日  
斉藤陽介、「アングル作《博士たちの間のイエス》に関する一考察——キ  
リスト教・ユダヤ教的要素を手掛かりに——」、第 61 回美学会全国大  
会、2010 年 10 月 10 日  
佐々木千佳、「形と変容—15 世紀ヴェネツィア美術家工房の聖母子画制作  
とその受容」、第 62 回美学会全国大会、2011 年 10 月 15 日  
篠崎亮、「ヤン・ホッサールの肖像画背景に描かれた大理石パネルをめ  
ぐる一考察」、第 62 回美学会全国大会、2011 年 10 月 16 日  
鈴木幸野、「ベルガモ郊外マルパーガ城内のフレスコ画連作について」、  
第 2 回美学会東部会例会、2010 年 9 月 25 日  
森田優子、「忠誠と礼讃—カルパッチョ作「スラヴ人会」絵画連作を例と  
して—」、第 62 回美学会全国大会、2011 年 10 月 15 日  
山田今日子、「17 世紀版画市場とレンブラント」、第 62 回美学会全国大  
会、2011 年 10 月 16 日  
山田今日子、「レンブラントとリューカス・ファン・レイデン——「エッ  
ケ・ホモ」を中心に——」、第 63 回美学会全国大会、2012 年 10 月 8  
日

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

山田今日子 (DC)

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2010 年度 博士課程後期 1 名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」

2011 年度 博士課程後期・学部生 (3 年) 計 2 名 ローマ大学「ラ・

サピエンツァ」、ウプサラ大学（スウェーデン）  
 2012年度 博士課程後期・学部生（3年）2名 ローマ大学「ラ・サ  
 ピエンツァ」、ウプサラ大学（スウェーデン）  
 2013年度 博士課程後期 2名 ローマ大学「ラ・サピエンツァ」、  
 ゲッティンゲン大学（ドイツ）

## 5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
09	1	0	1
10	3	0	3
11	2	2	4
12	2	1	3
13	1	1	2
計	8	3	11

## 6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
09	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
計	0	0	0

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

2009年度 工藤弘二 国立新美術館（研究補佐員）  
 2010年度 奥田亜希子 北九州市立美術館（学芸員）  
 門田彩 メナード美術館（学芸員）  
 鈴木幸野 志賀高原ロマン美術館（学芸員）  
 谷口依子 戸栗美術館（学芸員）  
 2011年度 石澤靖典 山形大学人文学部准教授  
 2012年度 加藤奈保子 福島大学人間発達文化学類准教授  
 小松健一郎 北九州市立美術館（学芸員）

齊藤陽介 上原近代美術館（学芸員）  
2013年度 佐々木千佳 秋田大学教育学部准教授

## 7-2 専攻分野出身の高度職業人

2009年度 1名  
2010年度 4名  
2011年度 1名  
2012年度 3名  
2013年度

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

## 10 刊行物

『美術史学』（年刊）

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010年度

6月19、20日 第34回地中海学会大会

2011年度

10月15～17日 第62回美学会全国大会

2012年度

6月16日 公開シンポジウム「地・人・芸術—〈芸術と地域〉を問う—」（於仙台市博物館ホール）

## 12 専攻分野主催の研究会等活動状況

[研究会]

・2009年

6月13日 若手研究者萌芽研究育成プログラム「地図と都市景観図にみる異文化受容の様相—15世紀から17世紀におけるアジアと



ヨーロッパの出会いー」第五回定期研究会「西洋古代における都市  
景観図の成立～なぜ西洋の都市図は無人なのか～」

発表者：芳賀京子

7月10日 美学・西洋美術史特別講義「メディアを通してみた近代日  
本」（大学間学術協定校ローマ大学「ラ・サピエンツァ」マルコ・  
デル・ベーネ教授）

10月4日 大学院 GP、東北史学会共催シンポジウム「文書館・博物  
館のこれからとアーキビスト・キュレーター養成」

10月5日 大学院 GP 共催、西洋美術史特別講演会、インゲボルク・  
カーダー氏（ミュンヘン大学）「ヨーロッパの石膏像ギャラリー  
——その歴史と現在——」

11月13日 美学・西洋美術史特別連続講義「マニエリスムの芸術論  
——アルベルティからカミッロへ」（弘前大学人文学部准教授・  
足達薫）（科研費「カーレル・ファン・マンデル著『北方画家列  
伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」基盤研究（B）に  
よる招聘講師）

・2010年度

6月3日 大学院 GP 共催、西洋美術史特別講演会、ニコラス・  
リーヴス氏（メトロポリタン美術館特別研究員）「ツタン  
カーメンの黄金のマスクの謎」

・2012年度

7月3日 美学・西洋美術史特別講演会、奈良澤由美氏（東京  
大学総合文化研究科特任研究員）「初期中世美術の成立と展  
開」（科研費「古代ギリシアの礼拝像の研究——「古き像」と  
「新しき像」の神性」 挑戦的萌芽研究 による招聘講師）

[土曜会（読書会）]

2008年度 第24回（9月28日）、第25回（2月14日）

2009年度 第26回（8月29日）。第27回（9月20日）

2010年度 第28回（4月3日）

2012年度 第29回（5月13日）

第30回（2月23日）

第31回（3月5日）

第 32 回 (3 月 28 日)  
2013 年度 第 33 回 (4 月 28 日)

[美学・映像研究会]

2012 年度 第 1 回 (6 月 15 日)、第 2 回 (7 月 27 日)  
第 3 回 (8 月 3 日) 第 4 回 (10 月 23 日)  
2013 年度 第 5 回 (7 月 5 日)

[卒論・修論構想発表会]

2008 年 7 月 22、25 日  
2009 年 7 月 13、14 日  
2010 年 7 月 12、13 日  
2011 年 8 月 2 日  
2012 年 7 月 13 日

[研究会]

- ・ 2009 年度
- ・ 2010 年度

4 月 26 日 伊藤麻衣「ヴィッテンベルク時代初期 (1505-09 年) におけるルーカス・クラナハ (父) ——〈聖カタリナ祭壇画〉にみられる、ドイツの視覚的伝統の影響——」

5 月 7 日 石澤靖典「ボッティチェッリの《サン・バルナバ祭壇画》——ダンテの銘文とアウグスティヌス派の聖母信仰をめぐって」

7 月 5 日 絹川陽子「カンポサントの《最後の審判と地獄》におけるキリストと聖母」

7 月 12 日 奥田亜希子「ベノッツォ・ゴッツォリの「正面観」に関する一考察——画家の両面性を映す鏡としての「正面観」——」

9 月 6 日 研究経過報告会 (鈴木幸野・伊藤麻衣・斉藤陽介)

9 月 22 日 大学院生の研究構想報告会

- ・ 2011 年

8 月 2 日 大学院生修論構想発表会

- ・ 2012 年

7 月 13 日 大学院生修論構想発表会

- ・ 2013 年

### 1.3 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

2004年度をもって一名の教員が定年により退職し、05年度は教授1名と助教1名体制になった。そのため学部・大学院を合計すると50人近い学生を抱える研究室としては、教育・研究のヴァリエーションの幅が小さくなったことは否めない。しかし、06年より助教授を迎え、教育的な専門領域が充実するようになった。さらに09年度からは、「美学」を専門とするイタリア人准教授が加わりスタッフの充実がはかられた。

教育活動としては、留学や研究生活を継続してきた大学院生の課程博士論文の授与数がこの5年間で4名となった。今後とも博士論文が質量とも充実していくことが望まれる。

その理由はいくつか考えられる。一つは、全国学会で発表後、最初の論文を作成するところまでは、ある程度順調にいくが、そのあと、留学の準備やそして留学によって、実際に論文を作成するよりも、作品を見てまわり、文献を調べたり調査したりする充電期間が予想以上に長くかかっていることがあげられる。

もう一つは、昨今の学生の場合、ロールモデルの存在が非常に大きい。博士論文提出者の理想的なロールモデルとなる学生が現在まで研究室にあらわれていない。その理由としては、論文を書くと言うことの意味づけが今ひとつ諒解されていないのではないか。本研究室でも、博士課程に進学した学生大半が、それぞれの専門領域におうじて海外の研究機関へ留学をしている。留学前後と比較すると、当該学生の語学力には格段の進歩がみられることは確かだ。作品の調査能力の進化にも一日の長が見うけられる。しかし、人文学にとって不可欠ともいえる、問題意識——なぜこの問題に取り組むのか、という必然性が深化しているとは言い難い。これがやはり、帰国後、留学と研究成果の発表とに直接的な結びつきがやや欠ける理由ではないか。

こうした研究・教育上の問題点は早くから意識されており、専攻分野主催の研究会などの活動をできるかぎり積極的に行ってきた。授業や演習とは別に、院生をレポーターとして、美術史という分野の視点に立って美術史関連分野の書物を読んでその問題点と課題を発表し参加者で議論する研究会を定期的開催している。そうすることで、ややもすると自分の専門領域の狭い範囲に閉じ

こもりがちな院生の問題意識を活性化させる努力をしている。

さらには、学部生、院生を交えた作品の調査・研修旅行を毎年企画し、作品への接し方や問題意識など日常を脱したところで自由に語り合うことも行っている。しかし、成果という点からすると、なお充分とは言い難い。研究指導において、学生のモチベーションをさらに高めていくことが、今後の院生指導の課題である。

最後に学生の就職にふれておきたい。学部卒業生の就職状況は、公務員、一般企業など、業種はまちまちであるが、それぞれ積極的に活動しおおむね良好である。院生の場合も、博士課程の前期修了者の場合、とくに専門領域にこだわらない形で就職を希望するものは、出版、マスコミなどそれぞれの希望に合わせて就職している。美術館、大学教員など専門職を希望する院生は、博士課程後期に進学しているが、状況は10年前とくらべると一段と厳しくなった。このあたりの学生支援をどのように進めていくかが課題である。

### Ⅲ 教員の研究活動 (2009~2013年度)

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

尾崎彰宏「オランダ美術における聖と俗——静物画の勃興」『西洋美術研究』No. 15、2009年、pp.84-99.

尾崎彰宏「アルベルト・エックハウトの「静物画」——オランダ植民地総督ヨーハン・マウリッツの「ユートピア」の表象——」『東北大学文学研究科年報』59号、2010年、pp.37-65.

尾崎彰宏「フェルメール絵画の平面性——そのエロティシズムに見る聖と俗——」、栗原・矢萩・辻本編『空間と形に感応する身体』東北大学出版会、2010年、pp.199-221.

尾崎彰宏「静物画としての自画像、あるいは自画像としての静物画」、栗原隆編『共感と感応——人間学の新たな地平』東北大学出版会、2011年、pp.217-244.

尾崎彰宏「「画家・版画家」レンブラントの芸術的な挑戦」Rembrandt: The Quest for Chiaroscuro, 国立西洋美術館、2012年、pp.31-42.

Akihiro Ozaki, The Artistic Challenges of Rembrandt as Painter-Printmaker, Rembrandt: The Quest for Chiaroscuro, Tokyo, 2012, pp.107-117.(上記論文

英訳)

尾崎彰宏「描かれた中国磁器——静物画に見るオランダという表象」栗原隆編『世界の感覚と生の気分』ナカニシヤ出版、2012年、pp.86-102.

尾崎彰宏「17世紀オランダ美術に描かれた女性たちをめぐって」東北大学大学院文学研究科出版企画委員会編『男と女の文化史』東北大学出版会、2013年、pp. 163-207.

Akihiro Ozaki, Painted Images of Chinese Porcelain -Symbols of Holland as

Seen in Still-Life Paintings, *Art History(Bijyutushigaku)*, 34(2013), pp.1-12.

芳賀京子「フェイディアス作《アテナ・パルテノス》(一)——賦与された機能と知覚される神性——」『美術史学』、29号、2009年、pp.143-164.

芳賀京子「ローマ世界のギリシア彫刻——人の像と神の像——」展覧会カタログ『古代ローマ帝国の遺産——栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ——』(国立西洋美術館、2009年9月19日~12月13日)、東京新聞、2009年、pp. 179-184.

Kyoko Sengoku-Haga, “Sculpture greche nel mondo romano: statue profane e statue divine”, in: *L’eredità dell’impero romano* (catalogo della mostra, The National Museum of Western Art, 19 settembre 2009 – 13 dicembre), Tokyo 2009 (上記の論文のイタリア語訳)

Kyoko Sengoku-Haga, Masanori Aoyagi, “Due statue marmoree da Somma Vesuviana: Dioniso e la Peplophoros,” *Amoenitas* 1 (2010), pp. 237-252.

芳賀京子「古代ギリシア・ローマの横たわる裸婦」『ヴィーナス・メタモルフォーシス——「ウルビーノのヴィーナス展」講演録』所収、三元社、2010年、pp.13-68.

芳賀京子「古代ローマにおけるギリシア人彫刻工房の研究」、平成19年~21年度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書、2010年、76pp.

芳賀京子「美術にみる古代ギリシア人の生と死」『生と死への問い』(人文社会科学講演シリーズV)所収、東北大学出版会、2011年、pp.1-52.

芳賀京子「フェイディアス作《アテナ・パルテノス》(二)——非ギリシア人の知覚する美と神性——」『美術史学』、31/32号、2010/2011年、pp.55-78.

芳賀京子「感性の美術～前4世紀以降のギリシャ美術～」、展覧会カタログ『大英博物館 古代ギリシャ展』（神戸市立博物館、2011年3月12日～6月12日ほか）、朝日新聞社、2011年、pp.198-203.

芳賀京子、青柳正規「《ディオニュソス》と《ペプロフォロス》——ソンマ・ヴェスヴィアーナ出土の二体の大理石像」『美術史学』33号、2012年、pp. 91-108（上掲の2010年のイタリア語論文の日本語訳）

芳賀京子「豊饒の角を持つヘラクレス」『美術史学』34号、2013年、pp. 61-78.

Enrico Fongaro, “Il tempo e il nulla: il pensiero di Carlo Michelstaedter nel dialogo interculturale”, *Studi Italici*, 59, 2009, pp.53-70.

Enrico Fongaro, “The Giotto’s O – Some considerations about the reception of the Italian translation of *Zen No Kenkyu*”, 『西田哲学会年報』第9号、2012年、pp. 186-174.

## 1-2 著書・編著

尾崎彰宏『ゴッホが挑んだ「魂の描き方」——レンブラントを超えて』  
小学館 2013年

座小田豊・尾崎彰宏編『今を生きる』東北大学出版会、2012年  
青柳正規、芳賀京子（監修）『古代ローマ帝国の遺産——栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ——』（展覧会カタログ、国立西洋美術館、2009年9月19日～12月13日 他）、国立西洋美術館、2009年

佐々木千佳、芳賀京子（編著）『都市を描く—東西文化にみる地図と景観図—』、東北大学出版会、2010年.

芳賀京子（監修）『大英博物館 古代ギリシャ展』（展覧会カタログ、神戸市立博物館、2011年3月12日～6月12日 他）、朝日新聞社、2011

Enrico Fongaro, Alfonso Cariolato (eds), Carlo Michelstaedter, *Parmenide ed Eraclito Empedocle*, Milano 2011

Enrico Fongaro, Marcello Ghilardi (eds.), Fongaro Enrico (tr.), Nishida Kitaro, Luogo, *Mimesis* 2012

Enrico Fongaro, Alfonso Cariolato (tr.), Martin Heidegger, *Platon, Sophistes*, Milano 2013（刊行予定）.

## 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

### (1) 翻訳

- 尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』 (1604) (11)」 (共訳)、『美術史学』30号、2009年、pp.117-124.
- 尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』 (1604) (12)」 (共訳)、『美術史学』31/32号、2010/11年、pp.127-152.
- 尾崎彰宏「史料翻訳 カーレル・ファン・マンデル著『絵画の書』 (1604) (13)」 (共訳)、『美術史学』33号、2012年、pp.125-137.
- 芳賀京子訳、展覧会カタログ『ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち』 (国立新美術館、2009年3月25日～6月1日)、朝日新聞社、作品解説などの翻訳 (nos. 9, 12-14, 29, 33-37, 42, 55, 57-58, 80-81, 89, 91, 99, 157-167; pp. 137, 212-214)

### (2) 書評

- 尾崎彰宏「私的世界が輝いていた時代」 (中村俊春編『絵画と私的世界の表象』京都大学学術出版会、2012年) 『図書新聞』 (3057号) 2012年4月7日
- 尾崎彰宏「「静物」の味覚と個人の誕生の物語」 (上村清雄編著『味覚のイコノグラフィア』ありな書房 2012年) 『図書新聞』 (3092号) 2013年1月1日
- 芳賀京子「水田徹著『パルテノン・フリーズ 観察と考察』」 『地中海学研究』35、2012年、pp. 193-197

### (3) 解説

- 尾崎彰宏「62 フェルメール《真珠の耳飾りの少女》」「63 レンブラント《ミネルヴァ》」「64 レンブラント派《黄金の兜の男》」作品解説『ベルリン美術館展』国立西洋美術館他、2012年
- 尾崎彰宏「オランダ絵画のパラドックス——レンブラントとフェルメール」『ベルリン美術館展』国立西洋美術館、2012年、pp.178-179.
- 芳賀京子「エトルリア美術」「マグナ・グラエキア美術」「古代ローマの建築」『イタリア文化辞典』、丸善出版、2012年

芳賀京子「古代彫刻への新旧のアプローチ」『遺跡学研究』8号、2011年、  
pp.160-163.

芳賀京子（監修、執筆）「ヨーロッパ美の起源 古代ギリシャ・ローマ特集」雑誌『Pen』、2012年12月15日、pp. 28-119.

芳賀京子「西洋古代における死とその表象」『東北文化研究室紀要』54、  
別冊、2013年、pp. 96-98.

Fongaro, Enrico, “Nishida Ikutaro”, “Tanabe Hajime”, “Nishitani Keiji”, in  
Franco Volpi, *Dizionario delle opere filosofiche*, Milano 2013（刊行予定）.

#### （４）その他（国際会議プロシーディング）

Kyoko Sengoku-Haga, “Le Peplophoroi della Villa dei Papiri e la misurazione  
tridimensionale”, A. De Rosa ed., *Vesuvio. Il Grand Tour dell’Accademia  
Ercolanese. Dal passato al futuro* (Atti del Convegno internazionale, Facoltà  
di Agraria dell’Università degli Studi di Napoli “Federico II”, Reggia di  
Portici, 21 e 22 maggio 2010) , Napoli 2010, pp. 93-100.

#### 1-4 口頭発表

尾崎彰宏「オランダ美術における聖と俗——静物画の勃興」第1回美学会  
東部会例会、慶應義塾大学、2009年6月6日

尾崎彰宏「「新世界」の驚異——アルベルト・エックハウトの静物画をめ  
ぐって」、筑波大学教授、研究代表・五十殿利治氏の科研費「芸術受  
容」研究会、共立女子大学、2009年9月27日

尾崎彰宏「自画像としての静物画／静物画としての自画像」美術史学会東  
支部大会、損保ジャパン東郷青児美術館、2010年10月23日

Akihiro Ozaki, Painted Images of Chinese Porcelain, Leiden University -  
Sapienza University - Tohoku University Trilateral workshop project  
(2013-2015) “Keywords for mutual appreciation of different cultures”ロー  
マ大学（ラ・サピエンツァ）、2013年3月18日

Akihiro Ozaki, RCA International Seminar, The Eastern Impact. The Enigma of  
Van Gogh’s challenge to Rembrandt, 2013年3月19日（ローマ第2大学で  
の招待講演）

芳賀京子、鎌倉真音、池内克史「古代カンパニア地方の2つの彫刻工房——



- 彫刻家ステファノスを3次元計測でつかまえる——」、国際シンポジウム「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元」、2009年2月11日
- 芳賀京子「出土彫刻—ディオニュソスとその眷属たち—」、国際シンポジウム「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元」、東京大学、2010年2月11日
- 芳賀京子「神像と神性—《アテナ・パルテノス》の場合」、公開シンポジウム「パルテノン神殿と祭神のイメージ—古代ギリシアの宗教観を問う試み」筑波大学、2010年3月20日（招待講演）
- 芳賀京子「古代ギリシア・ローマ世界の生動化するイメージ」、ミニシンポジウム「礼拝像の生動性をめぐって」、東京大学、2010年5月16日
- Kyoko Sengoku-Haga, “Le Peplophoroi della Villa dei Papiri e la misurazione tridimensionale”, Vesuvio. Il Grand Tour dell’Accademia Ercolanese. Dal passato al futuro, ナポリ大学フェデリコ2世、エルコラーノ（ナポリ）、2010年5月21日（招待発表）
- Kyoko Sengoku-Haga, “3D Analysis of Classical Sculpture”, Internationaler Museumstag am Leibniz-Rechenzentrum, ライプニッツ・スーパーコンピュータ・センター（ミュンヘン）、2013年5月12日
- 芳賀京子「アゴラクリトス作《ラムヌスのネメシス》」、日本西洋古典学会大会、東京大学、2013年6月1日
- 芳賀京子「古代ギリシアの神像、神域、都市国家」、空間史学研究会、東北大学、2013年8月1日
- Yujin Zhang, Min Lu, Bo Zheng, Takeshi Masuda, Shintaro Ono, Takeshi Oishi, Kyoko Sengoku-Haga and Katsushi Ikeuchi, “Classical Sculpture Analysis via Shape Comparison”, International Conference on Culture and Computing 2013, 立命館大学（京都）、2013年9月16～18日
- Enrico Fongaro, “Interculturalità e superamento della modernità”, シンポジウム「日本とイタリアにおける近代」、京都、イタリア国立東方学研究所、2009年10月17日（招待講演）
- Enrico Fongaro, “Esperienza della modernità nel pensiero di Nishida Kitaro”, シンポジウム “Immagini della modernità”, 伊日研究学会、ナポリ東洋大学、2010年9月15日（招待講演）
- Enrico Fongaro, “Modernità e interculturalità in riferimento al pensiero di

Nishida Kitaro”, ワークショップ *Modernità e filosofia interculturale*, パドヴァ大学、2010年9月17日（招待講演）

Enrico Fongaro, “The Giotto’s “o” – some considerations about the reception of the Italian translation of Zen no kenkyu” 「ジヨットーの「オ」（円形）— 『善の研究』 イタリア語訳の受容についての考察—」 西田哲学会、第9回年次大会、石川県西田幾多郎記念館、2011年7月16日

Enrico Fongaro, “Nishidas Philosophie der Zeit”, 国際シンポジウム Nishida Kitaro in der Philosophie des 20. Jahrhunderts, Internationale Tagung (20世紀の哲学における西田幾多郎) ドイツ・ヒルデスハイム大学、2011年9月5-9日（招待講演）

Enrico Fongaro, “The aspatial gaze – Nishida and Simmel about the problem of the Form”, 国際シンポジウム Japan and East Asia as seen from Europe, Europe as seen from Japan and East Asia、イタリア・ローマ大学、2013年3月18日（招待講演）

## 2 教員の受賞歴（2009～2013年度）

なし

## IV 教員による競争的資金獲得（2009～2013年度）

### （1）科学研究費補助金

「

（平成20年）～22年度

尾崎彰宏（研究分担者）「空間における形の認知を介した「主体」の存立の基底に見る感覚の根源性についての研究」 課題番号：20320003  
基盤研究（B）

平成21年度～24年度

尾崎彰宏（研究代表者）「カーレル・ファン・マンデル著『北方画家列伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」基盤研究（B） 課題番号：21320026

平成23年～26年度

尾崎彰宏（研究分担者）「共感から良心に亘る『共通感覚』の存立機制の解明、並びにその発現様式についての研究」基盤研究(A) 課題番号：

23242002

平成 24 年～

尾崎彰宏（研究分担者）「17 世紀オランダ美術の東洋表象研究」基盤  
研究（A）課題番号：24242008

平成 25 年～

尾崎彰宏（研究代表者）「静物」に関する脱領域的研究—ネーデルラ  
ント美術を中心に」基盤研究（C）

平成 25 年度 科学研究費研究成果公開促進費（学術図書）

尾崎彰宏（研究代表者）『カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解』  
課題番号：255021

（平成 19 年）～21 年度

芳賀京子（研究代表者）「古代ローマにおけるギリシア人彫刻工房の研究」  
基盤研究（C） 課題番号:19520088 2,900,000 円（3 年間総額）

（平成 20 年度）～22 年度

芳賀京子（連携代表者）「像（イメージ）の生動化についての比較美術  
史的研究」基盤研究（B） 課題番号：20320022

平成 21 年度～24 年度

芳賀京子（研究分担者）「カーレル・ファン・マンデル著『北方画家列  
伝』の成立と影響に関する比較芸術論的研究」基盤研究（B）課題番号：  
21320026

平成 23 年度～25 年度

芳賀京子（研究代表者）「古代ローマの彫刻コピー工房の研究——3 次  
元デジタルデータの取得と応用」 基盤研究(B) 課題番号：23320040  
6,800,000 円（平成 23～24 年度）

平成 23 年度～25 年度

芳賀京子（研究代表者）「古代ギリシアの礼拝像の研究——「古き像」  
と「新しき像」の神性」 挑戦的萌芽研究 課題番号：23652018  
2,500,000 円（3 年間総額）

平成 23 年度～25 年度

芳賀京子（連携研究者）「美術と宝物の相関性についての比較美術史的  
研究」 基盤研究(B) 課題番号：23320030

平成 25 年度～27 年度

Enrico Fongaro（研究代表者）「現在の平面」—西田幾多郎における時間論と存在論」基盤研究（C）課題番号：25370004 3,900,000円（3年間総額）

## （2）その他

（平成 20）～22 年度

芳賀京子（事業分担者）文部科学省・大学院教育改革支援プログラム（大学院 G P）『歴史資源アーカイブ国際高度学芸員養成計画』東北大学大学院文学研究科・歴史科学専攻

## V 教員による社会貢献（2009～2013 年度）

尾崎彰宏「自由へのまなざし（美の十選）」、日本経済新聞朝刊、2009 年（1 月 22 日、1 月 23 日、1 月 26 日、1 月 27 日、1 月 29 日、1 月 30 日、2 月 2 日、2 月 3 日、2 月 5 日、2 月 6 日）

尾崎彰宏「レンブラントとフェルメールの時代のオランダ絵画」、にいがた市民大学講座、生涯学習センター、2009 年 6 月 19 日

尾崎彰宏「ベンヤミンの遺産」、ローマ大学「ラ・サピエンツァ」、2010 年 3 月 18 日

尾崎彰宏「美術の楽しみと学び」磐城高等学校、2010 年 10 月 22 日

尾崎彰宏「レンブラントとそのライバルルーベンスを中心にして」、ブリヂストン美術館（土曜講座）、2011 年 4 月 2 日

尾崎彰宏「レンブラント 夢の傑作 10 選」NHK 日曜美術館、2011 年 4 月 26/5 月 1 日

尾崎彰宏「手紙が語るフェルメールの真実」NHK 日曜美術館、2011 年 7 月 24/31 日

尾崎彰宏「西洋美術にあらわれた〈男〉と〈女〉」有備館講座、2011 年 9 月 17 日

尾崎彰宏「光と神秘の画家 フェルメールからのラブレター展（上）／ブルーの輝き表情豊かな色彩再現」（上）（インタビュー記事）『河北新報』、2011 年 11 月 1 日

尾崎彰宏「光と神秘の画家 フェルメールからのラブレター展（下）／風

- 俗画の流行多様な市民生活描く」(下)(インタビュー記事)『河北新報社』、2011年11月3日
- 尾崎彰宏「フェルメール作品来日ラッシュ」(インタビュー記事)『日本経済新聞』2012年1月10日
- 尾崎彰宏「レンブラント・フェルメールの時代の女性たち」品川区民大学教養講座、2012年6月8日
- 尾崎彰宏「フェルメール熱風」(TEMPO)『週刊新潮』2012年6月28日号
- 尾崎彰宏「オランダ絵画のパラドックス—レンブラントとフェルメールを中心に」国立西洋美術館特別講演会、2012年7月14日
- 尾崎彰宏「メトロポリタン美術館「フェルメール “女” 見つめる謎」」NHK BS、2012年9月5/11日(出演)
- 尾崎彰宏「フェルメールへの旅—ベルリン美術館展」西日本新聞(インタビュー記事)2012年
- 尾崎彰宏「明日への提言(上)」『東北大学新聞』4月号
- 尾崎彰宏「明日への提言(下)」『東北大学新聞』5月号
- 尾崎彰宏「東からのインパクト」有備館講座 2013年6月15日
- 芳賀京子「ローマ人とギリシア美術—3次元計測で明らかになる古代彫刻工房の実態—」みやぎ県民大学、2009年9月19日
- 芳賀京子「古代ローマ帝国の遺産展—栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ—①~⑩」、東京新聞、2009年9月24日~10月3日
- 芳賀京子「ローマ世界の美術」、国立西洋美術館特別講演会、2009年10月24日
- 芳賀京子「ラオコーンの彫刻家たち」、斎里蔵講座、2010年6月5日
- 芳賀京子「美しきヒトのカラダ—ギリシア美術の裸体—」、リベラルアーツサロン、2011年6月11日
- 芳賀京子(出演)「日曜美術館 おしゃべりなカラダたち—ギリシャ彫刻の楽しみ方」、2011年7月17/24日、NHK教育
- 芳賀京子「ギリシャ彫刻の見方—古代の人々のまなざし」、国立西洋美術館特別講演会、2011年9月3日
- 芳賀京子「古代ローマの皇帝権力と美術」、仙台日伊協会第133回例会「イタリア文化の夕べ」、2012年9月14日

芳賀京子「西洋古代における死とその表象」、東北文化研究会公開講演会  
「表象としての身体——死の分化の諸相」、2012年11月24～25日  
芳賀京子「ギリシャ彫刻と3D - 最新技術で古代美術の真実を探る-」、  
萩友会関東交流会 講演会、2013年7月15日  
芳賀京子「古代ローマ世界の私的美術（仮）」、仙台日伊協会第135回例  
会「イタリア文化の夕べ」、2013年9月13日（予定）

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2009～2013年度）

尾崎彰宏

美術史学会委員（2003年）～07年、09年～  
美学学会委員（2004年10月）から現在に至る。  
仙台市博物館協議会委員 2010年～

芳賀京子

美術史学会委員 2007年～09年。  
美学学会幹事 2007年から現在に至る。  
京都ギリシア・ローマ美術館評議員 2006年7月から現在に至る。  
地中海学会大会準備委員 2010年。  
美術史学会委員 2013年。

Enrico Fongaro

西田哲学会理事 2012年～現在に至る

## VII 教員の教育活動

### （1）学内授業担当（2013年度）

#### 1 大学院授業担当

教授 尾崎彰宏

前期 美学・西洋美術史特論  
通年 美学・西洋美術史研究演習  
通年 美学・西洋美術史研究実習  
通年 美学・西洋美術史課題研究  
通年 留学生担当研究演習

准教授 芳賀京子

- 後期 美学・西洋美術史特論
- 通年 美学・西洋美術史研究演習
- 通年 美学・西洋美術史研究実習
- 通年 美学・西洋美術史課題研究
- 後期 人文社会科学研究

准教授 フォンガロ、エンリコ

- 通年 イタリア語（初級）
- 通年 イタリア語（中級）
- 通年 イタリア語（上級）
- 通年 美学・西洋美術史研究演習

## 2 学部授業担当

教授 尾崎彰宏

- 前期 美学・西洋美術史各論
- 前期 美学・西洋美術史基礎講読
- 後期 美学・西洋美術史概論
- 通年 美学・西洋美術史実習
- 通年 美学・西洋美術史演習
- 通年 IPLA の留学生担当授業
- 後期 英語原書講読

准教授 芳賀京子

- 前期 美学・西洋美術史概論
- 後期 美学・西洋美術史各論
- 後期 美学・西洋美術史基礎講読
- 通年 美学・西洋美術史実習
- 通年 美学・西洋美術史演習

准教授 フォンガロ、エンリコ

- 通年 イタリア語（初級）
- 通年 イタリア語（中級）
- 通年 イタリア語（上級）
- 通年 美学・西洋美術史概論

### 3 共通科目・全学科目授業担当

准教授 フォンガロ、エンリコ

通年 イタリア語（初級）

#### (2) 他大学への出講（2009～2013年度）

教授 尾崎彰宏

2010年度 東京大学文学部・大学院人文社会系研究科（集中）

岩手大学人文社会学部（集中）、放送大学宮城学習センター  
一面接授業（集中）

2011年度 名古屋大学文学研究科・文学部（集中）

2012年度 岩手大学人文社会学部（集中）

准教授 芳賀京子

2012年度 放送大学宮城学習センター一面接授業（集中）

准教授 Enrico Fongaro

2012年度 神戸大学国際文化学部（集中）